

発熱時(38℃以上)の注意

横浜市小児科医会救急委員会作成

○ 発熱時は水分が失われるので、十分な水分補給が必要です。乳幼児には乳幼児用のイオン飲料をこまめに与えることをお勧めします。

○ 一般に発熱時にはいつもより薄着にして、布団にくるまないようにして下さい。但し、寒くてがたがた震えているのは熱が上がる時で、この時は暖かくしてあげ、震えや寒気がおさまったら薄着にしましょう。

○ 発熱していても、元気で機嫌が悪くなく、水分も取れていれば解熱剤は必要ありません。

○ 発熱があり水分が取れなかったり、元気がない場合は、解熱剤を使用しましょう。解熱剤は6時間あけて追加しても構いませんが、病気の勢いが強い時は解熱剤を使用してもなかなか下がりません。水分を少しずつでも補給して、翌日受診して下さい。

○ 解熱剤がない場合は、市販の冷却シートやビニール袋に入れた冷たい水を額やわきの下に使用しても良いでしょう。乳児の額に市販の冷却シートを使用すると、緩んで鼻をふさぎ危険なことがありますので使用しないでください。

インフルエンザ流行期の発熱時の注意

インフルエンザの診断は通常、お子さんの症状とウイルスを検出する迅速診断検査の両者の総合的な判断をしますが、迅速診断検査は高熱が出てから最低半日位たたないと陽性になりません。したがって、発熱してすぐに救急医療機関に受診されて検査をしても、インフルエンザでもほとんどが陰性として出てしまいます。インフルエンザの特効薬といわれているタミフルは、発熱後すぐに飲まなくても、発熱2日以内に開始すれば効果があります。したがって、インフルエンザの流行時期の夜間の発熱でも、下記の全身の状態が悪くなく、特に気になる症状がなければ、翌日にかかりつけ医を受診することをお勧めします。

こどもの全身の状態をよく観察しましょう！

最も重要なことは、こどもの全身の状態をよく観察することです。以下の観察のポイントをチェック(☑)して、一つでも当てはまる時は、すぐに小児科を受診してください。

- 顔色が著しく不良。口唇が紫色。
- ぐったりして、明らかにいつもと顔つきも違う。
- ボーとしている。うとうとしてすぐに寝てしまう。
- 意味不明な言動がある。
- 水分が半日以上ほとんど取れていない。
- 尿が半日以上出ていない。